江戸川区立春江小学校

令和6年度から令和9年度版『しょうがく さんすう1』年間指導計画・評価計画（案）

● なかよしあつまれ

4月中旬（5時間）
p.2～8

◆単元の目標と評価規準

ものともものとを対応させることによって個数を比べることができるとともに、身のまわりのものの集合を捉える力を身につける。また、数や形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)】**

・ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。**<知・技>**
・観点に応じて、身のまわりのものの集合を捉えている。**<思・判・表>**
・数や形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	2～8	（どこがちがうかな）	①身のまわりの数量に対する関心をもち、ある観点に応じてものの集合を捉えることができる。	・2枚の絵の違いを探し、多い・少ない、左・右などの言葉を用いて表現する。 ・場面絵を見て、お話を作る。 ・同じ動物、ものなどに着目して、集合を作る。	・いろいろな集合を見つけたり、左右などの言葉を正しく用いたりすることができる。	・動植物の種類や位置、動作などの観点から仲間作りを考えている。
		（なかまをつくろう）	②身のまわりの数量に対する関心をもち、ある観点に応じてものの集合を捉えることができる。	・同じ動物、ものなどに着目して、集合を作る。 ・咲いているチューリップとつぼみのチューリップを別の集合と捉えたり、まとめて1つの集合と捉えたりするなど、観点を変えて集合を作る。	・種類や位置、動作などの違いを観点に加える場合と加えない場合など、いろいろな集合を作ることができる。	
		（たりるかな）	③ものともものとを対応させて、個数を比べることができる。	・ねずみといすを線でつないで、2つの集合を1対1対応させて数量を比較する。	・ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。	
		（どちらがおおい）	④ものをおはじきに置きかえて対応させて、個数を比べることができる。	・くまとりんごをおはじきに置きかえて、2つの集合を1対1対応させて数量を比較する。		
		かずをくらべよう	⑤身のまわりの数量に対する関心をもち、ものの個数を比べたり、ものの集合を捉えたりすることができる。	・ランドセルとロッカーや、体操着袋とフックの例をもとに、身のまわりのものの個数を1対1対応させて比較する。 ・花壇の花の例をもとに、身のまわりのものをいろいろな観点から集合として捉える。		・身のまわりのものについて、1対1対応させたて個数を比べたり、観点を決めて集合として捉えたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・数や形に親しみ、算数の学習に進んで関わろうとしている。

1 いくつかな

4月下旬～5月中旬（8時間）
p.9～23

◆単元の目標と評価規準

○10までの数及び0について理解し、ものの個数を正しく数えることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)(ウ)】**

・10までの数及び0の意味や、数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。**<知・技>**

・数を用いる具体的な場面に着目し、数の大きさや順序を具体物や図などを用いて考えている。**<思・判・表>**
・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
8	9～23	（かずのならびかた）	①1～5の数の意味、数え方、よみ方を理解する。	・場面絵を使っていろいろなものの数を数え、具体物の集合とブロック、数詞を対応させる。 ・集合の大きさを「いち」～「ご」といい、1～5と数字で表すことを知る。	・1～5の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	・数の大きさを、ブロックや絵などを用いて表している。
			②1～5の数の数え方、よみ方、書き方を理解し、習熟する。	・1～5の数の大きさを理解し、数字の書き方を知る。 ・具体物の数をブロックや数字で表す。 ・数字で表された大きさを絵などで表す。	・1～5の数の大きさを理解し、数えたりよんだり書いたりすることができる。	
			③6～10の数の意味、数え方、よみ方を理解する。	・場面絵を使っていろいろなものの数を数え、具体物の集合とブロック、数詞を対応させる。 ・集合の大きさを「ろく」～「じゅう」といい、6～10と数字で表すことを知る。	・6～10の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	
			④6～10の数の数え方、よみ方、書き方を理解し、習熟する。	・6～10の数の大きさを理解し、数字の書き方を知る。 ・具体物の数や、聞こえた音の回数などを数字で表す。 ・数字で表された大きさをブロックなどで表す。	・6～10の数の大きさを理解し、数えたりよんだり書いたりすることができる。	
			⑤10までの数の順序、大小、系列を理解する。	・10までの数を順に唱えたり、ブロックや数字で表したりする。 ・数字カードを使って数の大小を比較する場面で、数の大きさをブロックに置きかえたり、大小を言い表したりする。 ・順に並んだ数の空欄に数をあてはめる。	・10までの数の順序、大小、系列を理解している。	
		（0というかず）	⑥0の意味、よみ方、書き方を理解する。	・いちごが1個ずつ減っていく様子を見て、ないことを「れい」といい、0と書くことを知る。 ・輪投げをして1つも入らなかった状態が「0」であることを知る。	・無の0の意味、数え方、よみ方、書き方を理解している。	
		ことばであそぼう	⑦文字を使った言葉遊びをとおして、数についての感覚を養い、加法の素地となる見方を培う。	・ある文字数になる言葉を考える。 ・指定の文字数と同じ数になるように組を作る。	・指定の文字数の言葉を見つけたり、組み合わせて作ったりすることができる。	
		がっこうたんけんにいこう	⑧身のまわりにあるものの数に関心をもち、10以下の数のものを探すことができる。	・学校の中から、1～10の数や集合を探す。 ・いろいろなものの数を、助数詞をつけて数える。（p.176の[もののかずのかぞえかた]を扱う。）	・身のまわりから10以下の数のものを探したり、数を用いて表したりすることができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・ものの個数を数を用いて表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

◎ たしかめもんだい①

	頁	学習活動
	24	・「いくつかな」の練習をする。 [0のよみかた] ・「れい」と「ぜろ」のよみ方のちがいを知る。

2 なんばんめ

5月中旬（4時間）
p.25～30

◆単元の目標と評価規準

〇集合数と順序数について理解し、個数や順番及びものの位置を正しく数えたり表したりすることができるとともに、集合数と順序数の違いを具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)(ウ)、B(1)ア(ウ)】**

・個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。また、前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。**<知・技>**

・集合数と順序数を用いる具体的な場面に着目し、それらの違いを具体物や図などを用いて考えている。**<思・判・表>**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	25～30		①順序数と集合数の意味を理解する。	・かけっこの着順などについてお話をすることをとおして、1番め、2番め、…のように順番を数で表す。 ・集合数（3匹）と順序数（3匹め）の違いを知る。	・集合数と順序数の意味の違いを理解している。	・「いくつ」を表す集合数と、「何番め」を表す順序数との違いを、具体物や図などを用いて考えている。
			②前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。	・動物などの位置について、上（下）から1番め、2番め、…のように方向と数を用いて表す。	・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。	
			③11、12のよみ方や順序を理解する。	・干支の動物の順番を調べることをとおして、11、12のよみ方、順序を理解する。	・11、12の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	
		えあわせゲームをしよう	④順序数と集合数を正しく用いることができる。	・えあわせゲームの活動をとおして、順序数を用いてカードの位置を伝える。 ・「前から4番め」「後ろから4人」などの指示に合わせて起立する。	・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの順番や位置を表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・個数や順番及びものの位置を言葉や数を用いて表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

3 いまなんじ

5月下旬（1時間）
p.31～32

◆単元の目標と評価規準

〇時刻についての理解の基礎となる経験を重ね、日常生活の中で「何時」「何時半」のような時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づける力を身につける。また、時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・日常生活の中で時刻をよむことができる。**<知・技>**
・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。**<思・判・表>**
・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	33～34		①「何時」「何時半」の時刻のよみ方を理解する。	・日常生活と関連させて、時計のよみ方を練習する。 ★シミュレーション「とけい(1)」を使って活動する。	・時計の長針、短針の役割を理解し、時刻（何時、何時半）をよむことができる。	・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。
		はりをあわせよう	「何時」「何時半」の時刻のよみ方に習熟する。	・模型時計を使って、「何時」「何時半」の問題を出し合う。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

◎ たしかめもんだい②

	頁	学習活動
	34	・「なんばんめ」「いまなんじ」の練習をする。 [「なんばんめ」をいいかえよう] ・方向や位置を声に出して言ったり、言いかえたりする活動に取り組む。

4 いくつといくつ

5月下旬～6月上旬（7時間）
p.35～43

◆単元の目標と評価規準

○10までの数について、1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみることができるとともに、数の合成・分解について具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)】**

・1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみることができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、ある数を合成・分解した数を考え、それらを具体物や図などを用いて表現している。**<思・判・表>**
・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
7	35～43		①5を合成・分解することができる。	・袋から赤と青のおはじきを取り出す活動をとおして、5を合成・分解する。	・5を合成・分解することができる。	・ある数がいくつといくつでできたり、いくつといくつに分けられたりするかを、具体物や図などを用いて考えている。
			②6を合成・分解することができる。	・6個のおはじきを両手に分けて持ち、一方の手だけ開き、もう一方の手にいくつあるかを当てるゲームをとおして、6を合成・分解する。	・6を合成・分解することができる。	
			③7を合成・分解することができる。	・2つのさいころの目の和を7にするゲームをとおして、7を合成・分解する。	・7を合成・分解することができる。	
			④8を合成・分解することができる。	・数図カードを用いたゲームをとおして、8を合成・分解する。	・8を合成・分解することができる。	
			⑤9を合成・分解することができる。	・数字カードを用いたゲームをとおして、9を合成・分解する。	・9を合成・分解することができる。	
			⑥10を合成・分解することができる。	・ブロックと数字カードを対応させながら、10を合成・分解する。 ・10を分解した数を順序よく書く。また、分解した数の並び方を見て、1ずつ増減しているきまりに着目する。	・10を合成・分解することができる。	・10を分解した数の並び方を見て、1ずつ増減しているきまりに着目している。
		10であそぼう	⑦10までの数の合成・分解に習熟する。	・「2こで10」 神経衰弱のようにして、2つの数で10を作るゲームをする。 ・「かるたとり」 ある数を示し、それと組み合わせて10になるカードを取るゲームをする。 ・縦横斜めに並ぶ数の中から、合わせて10になる組み合わせを見つけて囲む。	・10の合成・分解に習熟している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・具体物や図などを用いて数を表し、ある数を合成・分解することに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい③

	頁	学習活動
	44	・「いくつといくつ」の練習をする。 [「いくつといくつ」をいいかえよう] ・10までの数の合成・分解を声に出して言ったり、言いかえたりする活動に取り組む。

5 ぜんぶでいくつ

6月上旬～下旬（9時間）
p.45～56

◆単元の目標と評価規準

〇加法の意味（増加、合併）や式について理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・加法の意味（増加、合併）や式について理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	45～56	（ふえるといくつ）	①加法の意味（増加）、加法の式について理解する。	・場面絵を見て、「だんごが1個あります。2個作りました。全部で3個になりました。」というお話を作る。 ・初めに3匹いて、2匹増えると5匹になる場面を表すことをとおして、加法（増加）の意味と式、「たしざん」の意味を知る。	・加法が用いられる場合（増加）や、加法の式の表し方を理解している。	・加法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②和が5以下の加法の計算ができる。	・増加の場面の文章題を解く。 ・和が5以下の加法の計算練習をする。	・増加の場面の文章題を解いたり、和が5以下の加法の計算をしたりすることができる。	
		（あわせていくつ）	③加法の意味（合併）を理解する。	・5匹と3匹を合わせると8匹になる場面を表すことをとおして、加法（合併）の意味を知る。 ・合併の場面の文章題を解く。	・加法が用いられる場合（合併）を理解し、文章題を解くことができる。	
			④増加や合併の加法の場面を言葉やブロック、図で表現し、加法の意味について理解を深める。	・4+2=6の式をもとに、増加や合併の問題場面を考え、それぞれ言葉やブロック、図で表現する。		・増加と合併の場面について、その違いを意識しながら、ブロックや図、式などを用いて表現している。
			⑤異種の量の加法の意味を理解する。また、和が10以下の加法の計算ができる。	・6+3=9の式になるお話を作る。 ・画用紙を5人に1枚ずつ配り、まだ2枚残っているときの全部の枚数を求めることをとおして、異種の量の加法の意味を知る。 ・和が10以下の加法の計算練習をする。	・加法が用いられる場合（異種の量）を理解している。また、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算ができる。	・加法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			⑥0の加法の意味を理解する。	・玉入れの得点を表す場面をとおして、0の加法の意味を知る。	・0を含む加法の意味を理解している。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑦和が10以下の加法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、加法の計算練習をする。 ★シミュレーション「たしざんカード(1)」を使って活動する。	・1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの加法の式を順序よく並べて、被加数や加数の変化のきまりに着目することができる。	・答えが6になる加法のカードを順序よく並べる。 ・同じ答えの加法のカードを順序よく並べる。		・同じ答えの加法の式の並べ方を、被加数と加数の変化のきまりに着目して工夫している。
		たしざんをつくろう	⑨10以下の数を、加法の式で表すことができる。	・1～9までのゼッケンを使って、指示された数が答えになるようにペアをつくり、加法の式に表す。	・10以下の数を、加法の式で表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・加法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、加法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

◎ たしかめもんだい④

	頁	学習活動
	58 57 ～	・「ぜんぶでいくつ」の練習をする。 [たしざんえほんをつくろう] ・4+3=7の式になるお話を考えて、絵本を作る。

6 のこりはいくつ

6月下旬～7月上旬（7時間）
p.59～67

◆単元の目標と評価規準

〇減法の意味（求残、求補）や式について理解し、1位数－1位数で繰り下がりのない減法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・減法の意味（求残、求補）や式について理解し、1位数－1位数で繰り下がりのない減法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	59～67		①減法の意味（求残）、減法の式について理解する。	・場面絵を見て、「プリンが3個あります。2個食べました。残りは1個になりました。」というお話を作る。 ・初めに5匹いて、3匹取ると2匹になる場面を表すことをとおして、減法（求残）の意味と式、「ひきざん」の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求残）や、減法の式の表し方を理解している。	・減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②10以下の数から1位数をひく減法の計算ができる。	・求残の場面の文章題を解く。 ・10以下の数から1位数をひく減法の計算練習をする。	・求残の場面の文章題を解いたり、差が5以下の減法の計算をしたりすることができる。	
			③減法の意味（求補）を理解する。	・8人のうち3人が大人のときの子どもの人数を求めることをとおして、減法（求補）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求補）を理解し、文章題を解くことができる。	
			④異種の量の減法の意味を理解する。また、10以下の数から1位数をひく減法の計算ができる。	・6－2=4の式になるお話を作る。 ・帽子が9個あって6人の子どもが1個ずつ持っていくときの残りの数を求めることをとおして、異種の量の減法の意味を知る。 ・10以下の数から1位数をひく減法の計算練習をする。	・減法が用いられる場合（異種の量）を理解している。また、1位数－1位数で繰り下がりのない減法の計算ができる。	
			⑤0の減法の意味を理解する。	・いちごの数が減っていく場面をとおして、0の減法の意味を知る。	・0を含む減法の意味を理解している。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥10以下の数から1位数をひく減法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、減法の計算練習をする。 ★シミュレーション「ひきざんカード(2)」を使って活動する。	・1位数－1位数で繰り下がりのない減法の計算が確実にできる。	
			⑦同じ答えの減法の式を順序よく並べて、被減数や減数の変化のきまりに着目することができる。	・答えが4になる減法のカードを順序よく並べる。 ・同じ答えの減法のカードを順序よく並べる。		・同じ答えの減法の式の並べ方を、被減数と減数の変化のきまりに着目して工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、減法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

■ いったりきたり

7月上旬（1時間）
p.68

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	68		①数の大小の比較及び減法の計算に習熟する。	・数の大小を比較したり、減法を用いたりして、数カードを使ったすごろくゲームをする。	・10までの数について、大小を比べたり差を求めたりすることができる。	

◎ たしかめもんだい⑤

	頁	学習活動
	69～70	・「のこりはいくつ」の練習をする。 [ひきざんえほんをつくろう] ・7−3=4の式になるお話を考えて、絵本を作る。

7 どれだけおおい

7月中旬（3時間）
p.71～74

◆単元の目標と評価規準

〇減法の意味（求差）や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・減法の意味（求差）を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
3	71～74	（ちがいはいくつ）	①②減法の意味（求差）を理解する。	・場面絵を見て、数の大小について振り返る。 ・いちごあめはぶどうあめより何個多いかを求めることをとおして、求差（AはBよりいくつ多い）の意味を知る。 ・バスとタクシーではどちらが何台多いかを求めることをとおして、求差（どちらがいくつ多い）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求差）を理解し、文章題を解くことができる。（AはBよりいくつ多い）	・減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			③異種の量の減法の意味（求差）を理解する。	・いすと子どもの数の違いを求めることをとおして、異種の量の求差（ちがいはいくつ）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求差）を理解し、文章題を解くことができる。（ちがいはいくつ）	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、減法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

■ さんすうなつやすみ

7月中旬（1時間）
p.75

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	75		①加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	・夏休みに関する場面絵をもとに、加法、減法の問題に取り組む。	・加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	

◎ たしかめもんだい⑥

	頁	学習活動
	76	・「どれだけおおい」の練習をする。

8 10より大きいかず

9月上旬～下旬 （10時間）
p.77～89

◆単元の目標と評価規準

〇30程度までの数について理解し、数えたり表したり比べたりすることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力、及び繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)(エ)(オ)(ク)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(エ)】**

・30程度までの数の数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算ができる。**<知・技>**

・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	77～86	（20より大きいかず）	①②20までの数の数え方、よみ方、表し方を理解する。	・あさがおや貝殻の数を数えることをとおして、13や18のよみ方、表し方を知る。 ★まとめアニメ「10より大きいかず」を使って確認・説明する。 ・とんぼの数を数えることをとおして、20のよみ方、表し方を知る。 ・11～20の数のよみ方、書き方を知る。	・20までの数について、数え方、よみ方、表し方を理解している。	・10より大きい数について、2ずつや5ずつ、10ずつなどの数のまとまりを用いて数えたり、「10とあといくつ」などの見方を用いて表し方や比べ方を考えたりしている。
			③数のまとまりに着目しながら、20までの数を数えることができる。	・20までの具体物を、10といくつとみて数えたり、2とびや5とびで数えたりする。	・20までの数について、2とびや5とびで数えるしかたを理解し、数えたり表したりすることができる。	
			④20までの数を合成・分解することができる。	・20までの数を10といくつに合成・分解する。	・20までの数を10といくつに合成・分解することができる。	
			⑤20までの数を数直線上に表し、数の順序、系列を理解する。	・うさぎなどの進んだ位置を考えることをとおして、数直線(数の線)について知る。 ・20までの数の順序、系列を考える。 ・20までの数で順序数と集合数の違いを考える。	・20までの数について、数直線での位置、順序、系列を理解している。	
			⑥20までの数の大小を理解する。	・20までの数の大小を比較したり、大小を言い表したりする。	・20までの数の大小を理解し、比べることができる。	
			⑦20台、30台の数の数え方、よみ方、表し方を理解する。	・たまごや折り紙の数を数えることをとおして、20台、30台の数の数え方、よみ方、書き方を知る。	・20台、30台の数について、数え方、よみ方、表し方を理解している。	
3	87～89	たしざんとひきざん	⑧十＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを理解する。	・10+3、13−3のような、十＋1位数の加法の計算とその逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとに考える。	・十＋1位数の加法と、その逆の減法の計算ができる。	・十＋1位数及び十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとにブロックなどを用いて考えている。
			⑨繰り上がり、繰り下がりのない、十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを理解する。	・15+2、18−3のような、十何＋1位数の加法の計算とその逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとに考える。	・繰り上がり、繰り下がりのない、十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算ができる。	
			[10をひくひきざん]*	・17−10の答えの求め方を考える。		
		かずをさがそう	⑩身のまわりの数に関心をもち、30くらいまでの数を探すことができる。	・身のまわりから、30くらいまでの数を探す。	・身のまわりから30くらいまでの数を探すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりのものの個数を数えたり、数えたものを数字で表したり、30程度までの数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

★本単元で、まなびリンク「プログラミング教材」を使用して、p.187「めざせ！ にんじん」の活動を扱うことができる。

◎ たしかめもんだい⑦

	頁	学習活動
	90	・「10より大きいかず」の練習をする。

9 かずをせいりして

9月下旬（2時間）
p.91～94

◆単元の目標と評価規準

〇絵や図を用いた数量の表現についての理解の基礎となる経験を重ね、ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができるとともに、データの個数に着目して身のまわりの事象の特徴を捉える力を身につける。また、数量の整理に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)、D(1)イ(ア)】**

・ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができる。**<知・技>**

・データの個数に着目し、身のまわりの事象の特徴を捉えている。**<思・判・表>**

・数量の整理に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	91～94		①②ものの数を種類ごとに分類整理したり、絵や図に表したりすることができる。	・野菜の種類ごとの数を絵や図に表したり、それらをよみ取って数を比べたりする。	・ものの数を種類ごとに分類整理して絵や図に表したり、それらをよみ取ったりすることができる。	・データの個数がわかりやすくなるように表し方を工夫して、身のまわりの事象の特徴を捉えている。
		かずのおおさをくらべよう	絵や図を用いた数量の表現に関心をもち、日常生活や学習に絵グラフを活用することができる。*	・果物の種類ごとの数を比べる場面で、絵や図の代わりに記号を用いてグラフに表す。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・ものの個数を絵や図などを用いてわかりやすく表すことのよさや楽しさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

10 かたちあそび

9月下旬～10月上旬（5時間）
p.95～100

◆単元の目標と評価規準

○立体図形の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにし、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができるとともに、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする力を身につける。また、身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)】

・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。**<知・技>**

・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。**<思・判・表>**

・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	95～100	たかくつもう まちをつくろう	①②箱などの具体物を観察し、それらを使って構成する活動をとおして、立体図形の特徴や機能を理解する。	・箱を高く積み上げる活動に取り組み、高く積むための工夫について説明する。 ・建物や車などいろいろな形を作り、形を構成する際の工夫について説明する。	・身のまわりにあるものの形について、形の特徴や機能的な特徴を理解し、箱などを用いて具体物の形を作ったり、作った形から逆に具体物を想像したりすることができる。	・身のまわりにあるものの形について、色や大きさ、位置や材質などに関係なく形を認め、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりしている。
			③箱などの具体物を観察し、それらの形の特徴を捉えて分類することができる。	・箱の形の特徴に着目して、箱の形、さいころの形、つつの形、ボールの形に仲間分けをする。	・身のまわりにあるものの形の特徴を捉えて分類することができる。	
			④箱などの具体物の面の形の特徴を捉え、それらを使って形を構成することができる。	・箱の形の面を色紙に写し取って切り取り、ながしかく、ましかく、さんかく、まるに仲間分けをする。 ・面の形を切り取った色紙を使っていろいろな形を構成する。	・箱などの具体物の面の形の特徴を捉え、しかく、さんかく、まるなどを見つけ、それらを使って形を構成することができる。	
		かたちをあてよう	⑤立体図形の特徴を捉え、表現することができる。	・形の特徴を言葉で表し伝え、その特徴をもつ立体図形を手で触って当てる。 ・立体図形を触って特徴を伝え、その特徴からどんな形かを当てる。	・身のまわりにあるものの形について、平ら、丸い、かどがあるなどの形の特徴を理解している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりにあるものの形に関心をもち、観察したり構成したり分解したりすることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑧

	頁	学習活動
	101	・「かずをせいりして」「かたちあそび」の練習をする。

■ こうていでさんすう

10月上旬（1時間）
p.102

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	102		①加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	・校庭の場面絵をもとに、加法、減法の問題に取り組む。	・加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	

11 3つのかずのたしざん、ひきざん

10月中旬（4時間）
p.103～109

◆単元の目標と評価規準

〇3口の数の加法、減法の意味や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・3口の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	103～109		①3口の数の加法になる場面を式に表し、計算ができる。	・「初めに4匹載っています。3匹乗りました。」というお話を作り、場面や式について話し合う。 ・上の場面から、さらに2匹乗った場面を捉え、3口の加法の式に表し、答えを求める。	・3口の加法が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	・3口の加法や減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②3口の数の減法になる場面を式に表し、計算ができる。	・教室のりすが帰る場面絵を見て、3口の減法の式に表し、答えを求める。	・3口の減法が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	
			③3口の数の加減混合の計算になる場面を式に表し、計算ができる。	・メダルをあげたり作ったりする場面絵を見て、3口の加減混合の式に表し、答えを求める。	・3口の加減混合の計算が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	
		10こをならべよう	④10を多面的に捉えて、式に表すことができる。	・10個のブロックの並び方をいろいろな式に表したり、式に合うブロックの並び方を考えたりする。		・10を多面的に捉えて、ブロックの並び方を式に表したり、式をよみ取ってブロックの並び方と関連づけたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・3口の加法、減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑨

	頁	学習活動
	110	・「3つのかずのたしざん、ひきざん」の練習をする。

12 たしざん

10月下旬～11月上旬（8時間）
p.111～121

◆単元の目標と評価規準

○1位数＋1位数で繰り上がりのある加法について理解し、計算することができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の意味や計算のしかたを理解し、加法の計算が確実にできる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	111～121		①②1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（加数分解）を理解する。	・場面絵を見て加法の問題を作り、加法の計算のしかたを振り返る。また、算数の学習の進め方を知る。 ・9＋4のような、1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを加数分解で考える。 ★まとめアニメ「9＋4のけいさんのしかた」を使って確認・説明する。 ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（加数分解）を理解し、計算ができる。	・10のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算のしかたをブロックや図、式などを用いて考えている。
			[ともだちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[つながるミカタ]	・繰り上がりのある加法の計算のしかたについて、「10のまとまり」「10とあといくつ」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（被加数分解）を理解し、計算ができる。	
			③④1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（被加数分解）を理解する。	・7＋9の計算のしかたを、加数分解、被加数分解で考える。 ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。		
			⑤1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算ができる。	・繰り上がりのある加法の文章題を解いたり、問題を作ったりする。	・加法が用いられる場合を理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の文章題を解くことができる。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥⑦1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、加法の計算練習をする。 ★シミュレーション「たしざんカード(2)」を使って活動する。 ・計算カードを順序よく並べて、気がついたことを話し合う。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの加法の式を順序よく並べて、被加数や加数の変化のきまりに着目することができる。	・ある数を示し、その数が答えになる計算カードを取るゲームをする。 ・同じ答えの加法のカードを順序よく並べて、被加数と加数のきまりに着目する。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。	・被加数と加数の変化のきまりに着目して、答えが同じ加法の式の見つけ方を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・繰り上がりのある加法の計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑩

	頁	学習活動
	122	・「たしざん」の練習をする。

13 ひきざん

11月中旬～下旬（8時間）
p.123～133

◆単元の目標と評価規準

〇十何－1位数で繰り下がりのある減法について理解し、計算することができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・十何－1位数で繰り下がりのある減法の意味や計算のしかたを理解し、減法の計算が確実にできる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	123～133		①②十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減加法）を理解する。	・場面絵を見て減法の問題を作り、減法の計算のしかたを振り返る。 ・12－9のような、十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを減加法で考える。 ★まとめアニメ「12－9のけいさんのしかた」を使って確認・説明する。 ・繰り下がりのある減法の計算練習をする。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減加法）を理解し、計算ができる。	・10のまとまりに着目し、繰り下がりのある減法の計算のしかたをブロックや図、式などを用いて考えている。
			[ともだちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[おおいのかな、すくないのかな]	・数が多い・少ないを言い換える活動をとおして、加法と減法が逆の関係にあることに気づく。		
			③④十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた(減減法）を理解する。	・12－3の計算のしかたを、減加法、減減法で考える。 ・繰り下がりのある減法の計算練習をする。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減減法）を理解し、計算ができる。	
			⑤十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算ができる。	・繰り下がりのある減法の文章題を解いたり、問題を作ったりする。	・減法が用いられる場合を理解し、十何－1位数で繰り下がりのある減法の文章題を解くことができる。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥⑦十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、減法の計算練習をする。 ★シミュレーション「ひきざんカード(2)」を使って活動する。 ・計算カードを順序よく並べて、気がついたことを話し合う。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの減法の式を順序よく並べて、被減数や減数の変化のきまりに着目することができる。	・ある計算カードを示し、それと同じ答えになる計算カードを出すゲームをする。 ・同じ答えの減法のカードを順序よく並べて、被減数と減数のきまりに着目する。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算が確実にできる。	・被減数と減数の変化のきまりに着目して、答えが同じ減法の式の見つけ方を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・繰り下がりのある減法の計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑪

	頁	学習活動
	134	・「ひきざん」の練習をする。

■ どこにあるかな

11月下旬（1時間）
p.135

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	135		①2方向からものの位置を表すことができる。	・ロッカーのイラストを見て、下から〇番め、左から〇番めのように、2方向からものの位置を表す。	・上下、左右、前後などの言葉を用いて、2方向からのものの位置を表すことができる。	

14 くらべかた

12月上旬～中旬（9時間）
p.136～146

◆単元の目標と評価規準

〇量の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにするとともに、長さ、かさ、広さなどの量の大きさの比べ方を考える力を身につける。また、身のまわりにあるものの大きさに親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・長さ、かさ、広さなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすることができる。また、身のまわりにあるものの大きさを単位として、そのいくつ分かで大きさを比べることができる。**<知・技>**
・身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしている。**<思・判・表>**
・身のまわりにあるものの量に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
9	136～146	（ながさくらべ）	①長さの意味、比べ方（直接比較）を理解する。	・2本の鉛筆、2本のひも、ハンカチの縦と横の長さを直接比較で比べる。	・長さの意味を理解し、長さを直接比較によって比べることができる。	・身のまわりのものの特徴の中で、比べたい量に着目し、直接比べたり、媒介物を用いて間接的に比べたり、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化したりするなど、比べ方を考えている。
			②③長さの比べ方（間接比較）を理解する。	・机が教室の入り口を通るかどうか、長さをテープに写し取って間接比較で比べる。 ・いろいろなものの長さをテープに写し取って比べる。	・ものの長さを間接比較によって比べることができる。	
			④長さの任意単位による測定について理解する。	・学習机の横と縦の長さを、糊や鉛筆を単位として、そのいくつ分で表して比べる。 ・いろいろなものの長さを、方眼のいくつ分で表して比べる。	・ものの長さについて、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		（水のかさくらべ）	⑤⑥かさの意味、比べ方（直接比較、間接比較）を理解する。	・2つの入れ物のかさを、一方の入れ物の水を他方の入れ物に移して比べる。 ・3つの入れ物のかさを、同じ入れ物に水を移したときの水面の高さで比べる。 ・2つの水槽のかさを、一方の水槽を他方の中に入れて比べる。	・かさの意味を理解し、もののかさを直接比較、間接比較によって比べることができる。	
			⑦かさの任意単位による測定について理解する。	・2つの水筒のかさについて、どちらがどれだけ多く入るかを、同じ大きさのコップを単位として、そのいくつ分で表して比べる。	・もののかさについて、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		（ひろさくらべ）	⑧広さの意味、比べ方（直接比較）、任意単位による測定について理解する。	・レジャーシートの広さを、直接重ねて比べる。 ・掲示板の広さを、同じ大きさの紙を単位として、そのいくつ分で表して比べる。	・ものの広さについて、直接比較や、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		じんとりゲームをしよう	⑨広さを任意単位で表し、比べることができる。	・方眼を使った陣取り遊びに取り組み、陣地の広さをます目のいくつ分で表して比べる。		・広さの大小を比べる場合に、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化する見方を生かしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・身のまわりにあるものの量（長さ、かさ、広さなど）に関心をもち、量の大きさを比べることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑫

	頁	学習活動
	147	・「くらべかた」の練習をする。

■ さんすうでふゆじたく

12月下旬（1時間）
p.148～149

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	148～149		①20までの数の順序、系列、加法、減法の計算に習熟する。	・20までの数で、すごろくをする。 ・加法、減法の練習問題に取り組む。 ・「けいさんしりとり」に取り組む。	・20までの数の順序、系列を理解するとともに、繰り上がりのある加法及び繰り下がりのある減法の計算ができる。	

15 大きなかず

1月上旬～2月上旬（11時間）
p.150～164

◆単元の目標と評価規準

○2位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方の基礎を理解し、120程度までの数を数えたり表したり比べたりすることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力、及び簡単な場合について2位数などの加法、減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(エ)】**

・2位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序を理解するとともに、120程度までの数を数えたり表したり比べたりすることができる。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算ができる。**<知・技>**

・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	150～161	（100より大きいかず）	①②100未満の数の数え方、よみ方、表し方、十進位取り記数法の基礎（一の位、十の位）を理解する。	・あさがおの種の数を10のまとまりを作って数えることをとおして、100未満の数のよみ方、表し方を知る。 ・十の位、一の位について知る。 ★まとめアニメ「十のくらいと一のくらい」を使って確認・説明する。	・一の位、十の位について知り、2位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・2位数について、「10のまとまりがいくつと、端数がいくつ」などの見方を用いて表し方や比べ方を考えている。
			③2位数の構成を理解する。	・43個のブロックを、ぱっと見て個数がわかりやすくなるように置く。 ・2位数を10がいくつと1がいくつと捉えるなど、多様な見方で表す。	・2位数を10がいくつと1がいくつと捉えることをとおして、数の構成を理解している。	
			④100の数え方、よみ方、書き方を理解する。	・ビーズの数を数えることをとおして、10を10個集めた数を「百」といい、100と書くことや、99より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「百」を使って確認・説明する。	・百について知り、100の数え方、よみ方、書き方を理解している。	
			⑤100までの数表を見て、数の並び方のきまりに着目することができる。	・100までの数表を縦、横、斜めに見て、数の並び方のきまりを見つける。		・100までの数表から、数の並び方に関するきまりを見いだしている。
			⑥数直線をもとに、2位数の順序、大小、系列について理解する。	・数直線（数の線）を用いて、100までの数の順序、大小、系列を考える。	・100までの数について、数直線での位置、順序、大小、系列を理解している。	
			⑦⑧簡単な3位数の数え方、よみ方、表し方、順序、大小、系列を理解する。	・色違いの花の数を数えることをとおして、100より大きい数の表し方を知る。 ・120程度までの数の表し方、順序、大小、系列を考える。	・120程度までの数について、数え方、よみ方、表し方、及び数直線での位置、順序、大小、系列を理解している。	
			[さんすうひろば]*	・十の位の1つ左の位を百の位ということを知る。		
3	162～164	たしざんとひきざん	⑨十を単位としてみられる数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・30+20、60−20のような、簡単な2位数どうしの加法、減法の計算のしかたを考える。	・十を単位としてみられる数の加法、減法の計算ができる。	・十を単位としてみられる数の加法と減法、及び簡単な2位数と1位数の加法と減法の計算のしかたを、10のまとまりや数の構成などをもとにブロックなどを用いて考えている。
			⑩簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・24+3、36−4のような、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算しかたを考える。	・簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算ができる。	
		かずあてゲーム①	⑪2位数の構成、順序、大小、系列について理解を深める。	・数の大きさに関わる質問をして、相手の持っているカードの数をできるだけ少ない回数で当てるゲームをする。	・2位数の構成、順序、大小、系列について理解している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりのものの個数を数えたり、数えたものを数字で表したり、120程度までの数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

16 なんじなんぷん

2月上旬（3時間）
p.165～168

◆単元の目標と評価規準

〇時刻についての理解の基礎となる経験を重ね、日常生活の中で「何時何分」のような時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づける力を身につける。また、時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・日常生活の中で時刻をよむことができる。**<知・技>**
・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。**<思・判・表>**
・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	165～168		①②時計のしくみを理解し、時刻をよむことができる。	・時計の目盛りのしくみを調べ、日常生活に関連させて、「何時何分」のような時刻をよんだり、用いたりする。 ★シミュレーション「とけい(2)」を使って活動する。	・時計の目盛りのしくみを理解している。	・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。
		なんじなんぷんかな	③「何時何分」の時刻のよみ方に習熟する。	・模型時計を使って、「何時何分」の問題を出し合う。	・時刻（何時何分）をよむことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

◎ たしかめもんだい⑬

	頁	学習活動
	169	・「大きなかず」「なんじなんぷん」の練習をする。

■ おなじかずずつにわけよう

2月中旬（1時間）
p.170

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	170		①1つの数を多面的にみて、同じ数のまとまりとしてみたり、等分した数としてみたりして、おはじきや式で表すことができる。	・12個のおはじきを2個ずつに分けたり、2人で同じ数ずつに分けたりして、それらを式に表す。	・おはじきを同じ数ずつに整理して分けたり、それを式に表したりすることができる。	・1つの数を同じ数のまとまりとしてみたり、等分した数としてみたりして、多面的に捉えている。

17 どんなしきになるかな

2月中旬～下旬（5時間）
p.171～176

◆単元の目標と評価規準

〇順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	171～176	（じゅんばんのかずのけいさん）	①順序数の加法の意味、計算のしかたを理解する。	・場面絵を見て、順序数と集合数の違いについて振り返る。 ・ある子どもの位置が前から5番めで、更に後ろに3人いる場面で、全部で何人いるかを図などをかいて考え、加法を適用して解決する。	・順序数の加法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法が用いられる場面の式を、図に表して考えている。
			②順序数の減法の意味、計算のしかたを理解する。	・全部で9人並んでいて、ある子どもの位置が前から4番めの場面で、後ろに何人いるかを図などをかいて考え、減法を適用して解決する。	・順序数の減法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
		（ちがいをかんがえるけいさん）	③求大の場面の加法の意味、計算のしかたを理解する。	・兄が作った雪玉の数と、妹がそれより何個多く作ったかがわかっている場面で、妹が作った雪玉の数を図などをかいて考え、加法を適用して解決する。	・求大の場面で加法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
			④求小の場面の減法の意味、計算のしかたを理解する。	・兄が食べた豆の数と、妹がそれより何個少なく食べたかがわかっている場面で、妹が食べた数を図などをかいて考え、減法を適用して解決する。	・求小の場面で減法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
		かずあてゲーム②	⑤求大の場面で3口の数の加法になる場合について、図や式に表すことができる。	・ゆきのおはじき（5個）よりも2個多く持っているときのおはじきの数や、さらに1個多く持っているときのおはじきの数を、図や式に表して求める。		・求大の加法が用いられる場面の式を、図に表して考えている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

18 かたちづくり

2月下旬～3月上旬（5時間）
p.177～182

◆単元の目標と評価規準

〇平面図形の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにし、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができるとともに、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする力を身につける。また、身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)】

・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。**<知・技>**

・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。**<思・判・表>**

・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	177～182		①ものの形の特徴を捉え、色板を使って形を構成・分解することができる。	・色板を組み合わせて、シルエットに合わせた形を作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・色板を組み合わせて、身のまわりにある具体物の形を作ることができる。	・身のまわりにある具体物の特徴を捉え、それらの形の構成のしかたを考えている。
			②ずらす、回す、裏返すなどの移動の操作によって、形を構成することができる。	・4枚の色板でできた形を、ずらす、回す、裏返すなどの操作によって1枚だけ移動して、ほかの形に変える。	・ずらす、回す、裏返すなどの操作によって、ほかの形に変えることができる。	
			③ものの形を線で捉え、ストローを使って形を構成・分解することができる。	・ストローを使って、さんかくやしかくを作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・ストローを使ってさんかくやしかくを作ったり、それらの形を組み合わせて、身のまわりにある具体物の形を作ったりすることができる。	
			[かたちを見つけよう]	・身のまわりから、いろいろな形のものを見つける。		
			④ものの形を点と線で捉え、格子点を線でつないで形を構成・分解することができる。	・格子点を線でつないで、さんかくやしかくを作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・点と点を結んでさんかくやしかくをかいたり、かいた形から具体物を想像したりすることができる。	
		いろいたパズルをつくろう	⑤色板を使って形を構成・分解する活動をとおして、平面図形についての感覚を豊かにする。	・色板で作った形のシルエットでパズルを作り、友だちと交換して解き合う。	・色板を用いて具体物の形を構成したり、その形をさんかくやしかくに分解して捉えたりすることができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりにあるものの形に関心をもち、観察したり構成したり分解したりすることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑭

	頁	学習活動
	183	・「どんなしきになるかな」の練習をする。

◎ 1年のまとめ

3月中旬（3時間）
p.184～186

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
3	184～186		①②③第1学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、測定、データの活用についての問題に取り組む。	・第1学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	
			[大きなかずのたしざん]*	・34+20の答えの求め方を考える。		
			[1から9までたすと]	・1から9までの和を工夫して求める。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第1学年で学習した基本的な問題について、算数で学んだことのよさを感じながら取り組もうとしている。

■ プログラミングにちょうせん 「めざせ！ にんじん」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	187	・「□すすむ」「□もどる」のカードを組み合わせて、うさぎが10のところまで進むプログラムを考える。また、ゴールの数を変えた場合のプログラムも考える。 ★プログラミング教材「めざせ！ にんじん」を使って活動する。

■ もののかずのかぞえかた

	頁	学習活動
	188	・いろいろなものを数えるときの助数詞について知る。